

ここ数日改善が見られるようですが、年末頃から砂塵による大気汚染が続いています。昨年と比べて大気汚染状態がひどく期間も長く続いたため、2月は屋外での活動に大きな制約を受けました。皆様におかれても大気汚染のせいで体調を崩された方がいるのではないのでしょうか。大使館のホームページの「大気汚染情報」(<https://www.sn.emb-japan.go.jp/files/100629649.pdf>)を通じて最新の情報を入手できますので、是非ご利用ください。

懸案の大統領選挙につきましては、6日、サル大統領は憲法評議会の3月5日の判断を踏まえて3月24日に実施すると発表しました。選挙の日程については、大統領選挙の選挙戦がスタートする前日(2月3日)にサル大統領が選挙の延期を発表し、国民に反発が起こる中、その後憲法評議会が選挙を12月まで延期する法律を違憲とし、混迷を極めました。ようやく実施に向けて動き出しそうです。本7日午前の時点では、第2回投票等選挙日程の詳細や新政権誕生の時期の見通りは不明ですが、近々明らかになると思います。これまでの政治的混乱について、日本政府はセネガル国民が自ら解決すべき事態として静かに状況を見守って来ましたが、今回の決定を受けて、選挙が民主的、包摂的、平和裏に実施されることを期待しています。

本使の個人的な見解ですが、大統領の決定を司法機関である憲法評議会が違憲決定を下し、大統領に選挙日程の再考を求め、大統領が右を踏まえて新たな選挙日程を決定したという一連の事実は、セネガルにおける「法の支配」の顕現を世界に示すことになり、セネガルのみならずアフリカの民主主義と「法の支配」の歴史において極めて重要な意義を持つ出来事になったと思います。

5日には公邸において第36回俳句コンクールの表彰式を行いました。日本大使館が主催する俳句コンクールは45年の歴史があり、俳句という日本の代表的な文芸がセネガルにおいて受け入れられ、根付いていることは大変結構なことだと思います。今回も400に近い作品がセネガルや国外から応募がありましたが、興味深いことに受賞者の半分がダカール大学の理科系の学生でした。文系、理系を問わず、日本文化に関心を持っている学生が少なからずいることに深い感銘を受けました。

既に領事メール等でお知らせしていますが、日本政府は、カザマンズ地方への危険情報を改訂し危険度を引き下げました。カザマンズ地方が安定してきた状況を踏まえての措置です。残置地雷がある可能性のあるガンビアやギニアビサウとの国境地帯を除いて、カザマンズへの渡航情報はダカールと同じ扱いになります。乾燥しているセネガル北部中部と異なり、カザマンズには水と緑が豊かにあり、ダカールとは全く違った風景を楽しめます。皆様も機会があったら是非訪れてみてください。

本使は着任して2年が経ちました。着任以来日本とセネガルとの関係の強化のために試行錯誤で動いてきましたが、この2年大過なく大使として務めることができました。3年目に入りますのでこれまで培った経験や人脈を最大限活用して両国関係の強化のために更に邁進して参ります。皆様の参考までに本年予定されているセネガルでのイベントを「歳時記」として当館ホームページで載せていますのでお時間ある時にもご覧ください。